

政務活動費支出命令書(会派支出)

新友会

会派名

支払日	✓ 令和 7年 10月 31日			
支払先	NTT東日本			
活動に要 した経費	使 途 区 分	経費の内訳、算出根拠等		金 額
	(該当項目に○)	通信運搬費	10月分 NTT Bフレッツ利用料	5,940円
	研究研修費			
	調査旅費			
	資料作成費			
	資料購入費			
	広報・広聴費			
	人件費			
	事務所費			
その他の経費				
合 計				5,940円

(領収書添付欄)

電話料金等領収証
(Receipt)

ご請求番号または
お客さま電話番号等
[REDACTED]

お客さま氏名
長野市役所 議会事
務局 (新友会) 様

金 額
2025年10月分
¥5,940
うち、消費税等当額 540円

NTT東日本株式会社
埼玉事業部
お客さまからの
料金お問い合わせ先(無料)
0120-002-992

収入印紙貼付欄
領収日付印
1
出納済
7.10.31
長野市役所
十二銀
(お客さま)

380-0813

長野市大字鶴賀緑町1613

長野市役所 議会事務局 (新友会) 様



TEL (無料) 0120-002-992
還付先: 〒983-0841
仙台市宮城野区 原町
6丁目 日本郵便株式会社仙台東郵便局
私書箱2号 5
社用 101001221001 00192 00190 00*
コード NTT東日本料金請求書
(NTTEAST-Bill)

2025年10月16日発行

※お問い合わせの際は、番号をよくお確かめのうえおかけください。

ご注文・お問い合わせは局番なしの「116」へ(無料)	携帯電話・PHSからは 0120-116-000(無料)
電話の故障は局番なしの「113」へ(無料)	携帯電話・PHSからは 0120-444-113(無料)
ひかり電話の故障は0120-000-113へ(無料)	携帯電話・PHSからも利用可能

〒161-0001 長野市大字鶴賀緑町1613
ご利用料金を内訳書の内容を十分ご確認ください。お支払い願います。

料金お問い合わせ先 0120-002-992 (無料)

お客さま電話番号等	ご請求年月 / 2025年10月分	ご請求額 (Charge) / 5,940 円	お支払期限 (Due Date) 2025年10月31日
ご請求の内訳	金額 (円)	お知らせ	
NTT東日本ご利用分 (合計)	5,940 5,940	詳細については、「ご利用料金内訳書」をご覧ください。	
お支払期限後に支払われた場合は、契約約款等に定める延滞 利息をお支払いいただく場合があります。			
営業時間		料金お問い合わせ電話受付 午前9時～午後5時 ※土曜・日曜・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)は休業とさせて いただきます。	

↓下の部分を切り取り、裏面の各お支払い場所にてお支払い願います。

政務活動費支出命令書(会派支出)

新友会

会派名

支払日	✓ 令和 7年 10月 31日			
支払先	NTT東日本			
活動に要 した経費	使 途 区 分	経費の内訳、算出根拠等		金 額
	(該当項目に○)	通信運搬費	10月分 FAX使用料	4,648円
	研究研修費		(026)229-6386	
	調査旅費			
	資料作成費			
	資料購入費			
	広報・広聴費			
	人件費			
	事務所費			
	その他の経費			
合 計				4,648円

(領収書添付欄)

電話料金等領収証
(Receipt)

ご請求番号または
お客さま電話番号等
[REDACTED]

お客さま氏名
長野市役所 議会事
務局 (新友会) 様

金 額
2025年 10 月分
¥ 4,648
うち、消費税相当額
422円

NTT東日本株式会社
埼玉事業部
お客さまからの
料金お問い合わせ先(無料)
0120-002-992

収入印紙貼付欄

領収日付印

1
出納済
7. 10. 31
長野市役所 収
十二銀

(お客さま)



TEL 0120-002-992

受付先: 983-0841

仙台市宮城野区 原町

6丁目 日本郵便株式会社仙台東郵便局

私書箱2号 5

社用 101001321001 00530 00482 00*

コード NTT東日本料金請求書 (NTTEAST-Bill)



2025年10月27日発行

※お問い合わせの際は、番号をよくお確かめのうえおかけください。

ご注文・お問い合わせは局番なしの「116」へ(無料) 携帯電話・PHSからは 0120-116-000(無料)

電話の故障は局番なしの「113」へ(無料) 携帯電話・PHSからは 0120-444-113(無料)

ひかり電話の故障は0120-000-113へ(無料) 携帯電話・PHSからも利用可能

日ごろ、NTT東日本をご利用いただきましてありがとうございます。
利用料金内訳書の内容を十分ご確認のうえ、お支払い願います。

料金お問い合わせ先 0120-002-992 (無料)

お客さま電話番号等 (026)229-6386	ご請求年月 /	ご請求額 (Charge)	お支払期限 (Due Date)
ご請求番号	2025年10月分	4,648 円	2025年11月10日
ご請求の内訳	金額 (円)	お知らせ	
NTT東日本ご利用分	4,648	詳細については、「ご利用料金内訳書」をご覧ください。	
(合計)	4,648		

お支払期限後に支払われた場合は、契約約款等に定める延滞利息をお支払いいただく場合があります。

料金お問い合わせ電話受付	
営業時間	午前9時～午後5時 ※土曜・日曜・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)は休業とさせていただきます。

↓下の部分を切り取り、裏面の各お支払い場所にてお支払い願います。

ご利用料金内訳書

お客さま電話番号等 (026)229-6386

1 ページ

料 金 内 訳 名	金 額 (円)	税区分	ご 利 用 期 間 等 の お 知 ら せ
【NTT東日本ご利用分】			
回線使用料 (基本料) (事務用)	4,180	合算	9月11日～10月10日
INS通話料	42	合算	9月11日～10月10日
ユニバーサルサービス料他	4	合算	1番号分のご請求となります。
消費税相当額	422		
(内訳) 消費税相当額 (合算分)	(422)		合算表示の料金を合計した4,226円に10%を乗じて算出しています。
(合 計)	4,648		

政務活動費支出命令書(会派支出)

新友会

会派名

支 払 日	√ 令和 7年 10月 31日			
支 払 先				
活動に要 した経費	使 途 区 分	経費の内訳、算出根拠等		金 額
	(該当項目に○)	賃 金	10月分賃金 1,100円×140.5時間	154, 550円
	研 究 研 修 費		10月分賃金 1,100円×137時間	150, 700円
	調 査 旅 費			
	資 料 作 成 費			
	資 料 購 入 費			
	広 報 ・ 広 聴 費			
	人 〇 件 費			
	事 務 所 費			
	その他の経費			
合 計				305, 250円
(領収書添付欄)				

政務活動費支出命令書(会派支出)

新友会

会派名

支払日	令和 7年 10月 31日			
支払先				
活動に要した経費	使 途 区 分	経費の内訳、算出根拠等		金 額
	(該当項目に○)	通 勤 費	10月分通勤費 800円×22日	17,600円
	研究研修費		10月分通勤費 400円×21日	8,400円
	調査旅費			
	資料作成費			
	資料購入費			
	広報・広聴費			
	人(件)費			
	事務所費			
	その他の経費			
合 計				26,000円
(領収書添付欄)				

出勤簿

令和 7年 10月分						氏 名			
日	曜日	出 勤	退 勤	勤務時間	実勤務時間	時間外	休日出勤	年 次 有給休暇	備 考
1	水	8:30	16:00	7:30	6:30				本会議
2	木	9:00	16:00	7:00	6:00				
3	金	9:30	16:00	6:30	5:30				
4	土								
5	日								
6	月	9:00	16:30	7:30	6:30				
7	火	8:30	16:00	7:30	6:30				政策説明会、勉強会
8	水	9:00	16:30	7:30	6:30				委員会
9	木	9:00	16:00	7:00	6:00				
10	金	9:00	16:00	7:00	6:00				
11	土								
12	日								
13	月								
14	火	9:00	16:00	7:00	6:00				委員会
15	水	13:00	16:00	3:00	3:00			3:00	役員会、総会、委員会
16	木	9:00	16:30	7:30	6:30				委員会
17	金	9:30	16:30	7:00	6:00				委員会、審査会
18	土								
19	日								
20	月	9:00	16:30	7:30	6:30				審査会
21	火	9:00	16:30	7:30	6:30				
22	水	9:00	16:30	7:30	6:30				委員会
23	木	9:00	17:30	8:30	7:30				委員会、勉強会
24	金	9:00	17:30	8:30	7:30				
25	土								
26	日								
27	月	9:00	17:00	8:00	7:00				委員会
28	火	8:30	16:30	8:00	7:00				役員会、総会
29	水	9:00	16:00	7:00	6:00				
30	木	9:00	13:00	4:00	3:00			3:00	
31	金	9:00	16:00	7:00	6:00				
計				155:30	134:30			6:00	140:30
上記のとおり勤務したことを証明します。									
氏 名 寺沢さゆり 									
金 172,150 円 (うち通勤費 17,600 円)					左記金額領収致しました。 令和 7 年 10 月 31 日 氏 名 				

出勤簿

令和 7年 10月分						氏 名			
日	曜日	出 勤	退 勤	勤務時間	実勤務時間	時間外	休日出勤	年 次 有給休暇	備 考
1	水	8:30	17:00	8:30	7:30				本会議
2	木	9:30	16:00	6:30	5:30				
3	金	9:00	16:00	7:00	6:00				
4	土								
5	日								
6	月	9:00	16:00	7:00	6:00				
7	火	9:00	17:00	8:00	7:00				政策説明会、勉強会
8	水	9:00	17:00	8:00	7:00				委員会
9	木	9:00	16:00	7:00	6:00				
10	金	9:30	16:00	6:30	5:30				
11	土								
12	日								
13	月								
14	火	9:00	16:00	7:00	6:00				委員会
15	水	9:00	12:00	3:00	3:00			3:00	役員会、総会、委員会
16	木	9:30	16:30	7:00	6:00				委員会
17	金	9:00	16:00	7:00	6:00				委員会、審査会
18	土								
19	日								
20	月	9:00	16:00	7:00	6:00				審査会
21	火	9:00	12:00	3:00	3:00			3:00	
22	水	9:00	16:00	7:00	6:00				委員会
23	木	9:00	16:30	7:30	6:30				委員会、勉強会
24	金	9:00	16:00	7:00	6:00				
25	土								
26	日								
27	月	9:00	16:00	7:00	6:00				委員会
28	火							6:00	役員会、総会
29	水	9:00	17:00	8:00	7:00				
30	木	9:00	16:30	7:30	6:30				
31	金	9:00	16:30	7:30	6:30				
計				144:00	125:00			12:00	137:00

上記のとおり勤務したことを証明します。 氏 名 寺 沢 さ ゆ り 

金 159,100 円 (うち通勤費 8,400 円)	左記金額領収致しました。 令和7年10月31日 氏 名 
--------------------------------	---

政務活動費支出命令書(会派支出)

新友会

会派名

支払日	✓ 令和 7年 10月 17日			
支払先	加藤 英夫／青木 敏明／金沢 敦志／小泉 栄正／寺沢さゆり			
活動に要 した経費	使 途 区 分	経費の内訳、算出根拠等		金 額
	(該当項目に○)	旅 費	中核市サミット2025 in福井 日本旅行手配済分(JR切符代等)	106,960円
	研 究○ <u>研</u> 修 費		振込手数料	880円
	調 査 旅 費			
	資 料 作 成 費			
	資 料 購 入 費			
	広 報・広 聴 費			
	人 件 費			
	事 務 所 費			
	その他の経費			
合 計				107,840円
(領収書添付欄)				

電信扱

5
出納簿
7.10.17
長野市役所
十二
紙入印紙
1. 現金・切手
200円貼付
振込金・手数料が
5万円未満非課税
非課税
申告書
※ 自店ご本人あての場合
はすべて200円貼付

登録番号：T3100001002833
株式会社 **八十二銀行**

4200②

発行日 : 2025年10月15日
請求No. SSN-4531-2025-00568

長野市議会新友会 様

請求書 INVOICE

株式会社 日本旅行 長野支店
登録番号 : T1010401023408
〒380-0821
長野県長野市上千歳町1-13-7-23
リアライズ長野ビル1階
TEL : 026-232-6152
FAX : 026-232-4526
支店長 : 臺 容之
担当者 :



毎度格別なお引き立てを頂き有難うございます。
下記の通りご請求申し上げますので宜しくお願い致します。

ご旅行代金等 (円)		お預かり金額 (円)		ご請求金額 (円)	
106,960		0		106,960	

10%対象合計 (円)	内消費税額 (円) (10%対象)	8% (軽減税率) 対象合計 (円)	内消費税額 (円) (8%軽減税率対象)	免税事業者10% 対象合計 (円)	免税事業者8%軽減 税率対象合計 (円)	対象外合計 (円)	預り金合計 (円)
106,960	9,723		0				

日付	種別・摘要	数量	単価	金額	税区分等	備考
10/30	JR代金 (長野→福井)	5	11,320	56,600	10%	
10/30	JR代金 (福井→長野)	1	11,320	11,320	10%	
10/31	JR代金 (小松→長野)	4	9,760	39,040	10%	

注) 税区分等欄の「8%※」は軽減税率対象、「免税10%」は免税事業者にかかる対象、「免税8%」は免税事業者にかかる軽減税率対象
【お振込先】 : みずほ銀行
【口座名義】 : 株式会社 日本旅行
2025年10月20日までにお支払い願います。
※恐れ入りますが、振込手数料はお客様ご負担にてお願い申し上げます。

発行日 : 2025年10月20日
No. SSR-4531-2025-00322

長野市議会新友会 様

領 収 証 RECEIPT

株式会社 日本旅行 長野支店
Nippon Travel Agency Co.,Ltd.
登録番号 : T1010401023408
〒380-0821
長野県長野市上千歳町 1-13-7-23
リアライズ長野ビル1階
TEL : 026-232-6152
FAX : 026-232-4526
支店長 : 臺 容之
担当者 :

印紙税申告納
付につき日本
橋 税務署承認済

下記の金額を正に領収いたしました。

金 額							
¥106,960							
10%対象合計	内消費税額(10%)	8% (軽減税率) 対象合計	内消費税額(8%)	免税事業者10% 対象合計	免税事業者8% 軽減税率対象合計	対象外合計	預り金合計
106,960	9,723		0				
月 日	品 名					金 額	税区分
10/30	JR代金として (福井方面)					106,960	10%

注) 税区分等欄の「8%※」は軽減税率対象、「免税10%」は免税事業者にかかる対象、「免税8%」は免税事業者にかかる軽減税率対象

<<支払種別>>
【現金】 : 0
【小切手】 : 0
【振込】 : 106,960
【クレジット】 : 0
【日本旅行ギフト券】 : 0
【日本旅行ギフトカード】 : 0
【ドリーム旅行券】 : 0
【デビットカード】 : 0
【他社ギフト券】 : 0
【自治体補助券】 : 0
【他社ポイント】 : 0
【企業旅行引換券・契約保養所】 : 0
【QRコード決済】 : 0
【コンビニ決済】 : 0

中核市サミット in 福井
令和7年10月30日(木)

福井市

旅費額明細

寺次議員 10/30

鐵道船賃

新友会 政務活動行政視察(No.1)

中核市サミット in 福井、まちづくり(株)、小松市(バス試乗)
令和7年10月30日(木)、31日(金)

<30日:通常期 31日:繁忙期>

JR福井駅

※福井駅からバス移動

JR小松駅

フェニックス・プラザ

まちづくり(株)

福井市

福井県永平寺町

小松市

旅 費 額 明 細

鉄 道 ・ 船 賃	行 先	自 長野	經由	經由	經由	經由	至 福井	運 賃	グリーン料金
	路 程	304.0 km	km	km	km	km	304.0 km	5,500 円	0 円
	急行 料金	特別職 5,820 円	円	円	円	円	計 5,820 円	小計 特 11,320 円	✓
	一般職	G 円	G 円	G 円	G 円	G 円	円	— 円	
	行 先	自 福井	經由	經由	經由	經由	至 小松	運 賃	グリーン料金
	路 程	48.3 km					km 48.3 km	1,050 円	0 円
	急行 料金	特別職 円					計 0 円	小計 特 1,050 円	✓
	一般職	G 円	G 円	G 円	G 円	G 円	円	— 円	
	行 先	自 小松	金沢 經由	經由	經由	經由	至 長野	運 賃	グリーン料金
	路 程	27.1 km	228.1 km	km	km	km	255.2 km	4,510 円	0 円
	急行 料金	特別職 5,250 円	円	円	円	円	計 5,250 円	小計 特 9,760 円	✓
	一般職	G 円	G 円	G 円	G 円	G 円	円	— 円	
	行 先	自	經由	經由	經由	經由	至	運 賃	グリーン料金
	路 程	km	km	km	km	km	0.0 km	円	0 円
	急行 料金	特別職 円	円	円	円	円	計 0 円	小計 特 0 円	
	一般職	G 円	G 円	G 円	G 円	G 円	円	— 円	
	行 先	自	經由	經由	經由	經由	至	運 賃	グリーン料金
	路 程	km	km	km	km	km	0.0 km	円	0 円
急行 料金	特別職 円	円	円	円	円	計 0 円	小計 特 0 円		
一般職	G 円	G 円	G 円	G 円	G 円	円	— 円		
行 先	自	經由	經由	經由	經由	至	運 賃	グリーン料金	
路 程	km	km	km	km	km	0.0 km	円	0 円	
急行 料金	特別職 円	円	円	円	円	計 0 円	小計 特 0 円		
一般職	G 円	G 円	G 円	G 円	G 円	円	— 円		
行 先	自	經由	經由	經由	經由	至	運 賃	グリーン料金	
路 程	km	km	km	km	km	0.0 km	円	0 円	
急行 料金	特別職 円	円	円	円	円	計 0 円	小計 特 0 円		
一般職	G 円	G 円	G 円	G 円	G 円	円	— 円		
行 先	自	經由	經由	經由	經由	至	運 賃	グリーン料金	
路 程	km	km	km	km	km	0.0 km	円	0 円	
急行 料金	特別職 円	円	円	円	円	計 0 円	小計 特 0 円		
一般職	G 円	G 円	G 円	G 円	G 円	円	— 円		
計 特								22,130	
—								0 円	
車 賃	自 至	円	自 至	円	計	円			
自 至	円	自 至	円	計	0 円				
航空 賃	自 至	円	自 至	円	計				
自 至	円	自 至	円	計	0 円				
日 当	定額1日	3,000 円	2.0 日	計 特	6,000 円				
定額1日	円	日	—	0 円					
宿泊 料	県内(県外) 定額・指定1夜	円	1 夜	計 特	実費	円			
県内・県外 定額・指定1夜	円	夜	—	円					
食卓 料									
備 考	☒ 宿泊料は、一夜 定額14,800円(特別職)を上限とする実費。 ☐ 高級旅費(条例第22条) ☐ 調整(条例第24条第4号適用)								合計
									28,130 円
									円

政務活動費支出命令書(会派支出)

新友会

会派名

支 払 日	✓ 令和 7年 10月 22日			
支 払 先	加藤 英夫／青木 敏明／金沢 敦志／小泉 栄正／寺沢さゆり			
活動に要 した経費	使 途 区 分	経費の内訳、算出根拠等		金 額
	(該当項目に○)	旅 費	中核市サミット 2025 in福井 旅 費(JR切符代等)	27,000円
	研 究○修 費		※@¥6,000×4名+@¥3,000×1名、 寺沢議員10/30のみ参加(日帰り)	
	調 査 旅 費			
	資 料 作 成 費			
	資 料 購 入 費			
	広 報・広 聴 費			
	人 件 費			
	事 務 所 費			
	その他の経費			
合 計				27,000円
(領収書添付欄)				

集 合 支 払 内 訳 書

事 由	氏 名	旅費受領額 (円)	支払日
中核市サミット2025 in福井 (令和7年10/30)	加藤 英夫	22,130	10月22日
※新友会行政視察(10/31)	青木 敏明	22,130	10月22日
	金沢 敦志	22,130	10月22日
	小泉 栄正	22,130	10月22日
	寺沢 さゆり	22,640	10月22日

※JR交通費+宿泊代(実費)

合計 111,160

JR代金

@106,960円

⇒ 旅行代理店へ
発注・支払済

ハピラインふくい(現地購入)

'@1,050円

宿泊費(4名分)

実費精算

日当@3,000×2日

'@6,000円

※寺沢議員10/30のみ参加
(日帰り)

'@3,000円

政務活動費支出命令書(会派支出)

新友会

会派名

支 払 日	✓ 令和 7年 10月 31日			
支 払 先	加藤 英夫／青木 敏明／金沢 敦志／小泉 栄正			
活 動 に 要 し た 経 費	使 途 区 分	経費の内訳、算出根拠等		金 額
	(該当項目に○)	出 席 負 担 金	R7新友会視察(10/31) L4自動運転団体視察費用	11,000円
	研 究 研 修 費			
	調 査 旅 費			
	資 料 作 成 費			
	資 料 購 入 費			
	広 報 ・ 広 聴 費			
	人 件 費			
	事 務 所 費			
	そ の 他 の 経 費			
	合 計			

(領収書添付欄)

領 収 証

新友会

様 No. _____

★ 11,000 -

但 自動運転視察費用

2025 年 10 月 31 日 上記正に領収いたしました

内訳	税率	金額(税抜・税込)
	10%	11,000 -
		消費税額等 1,000
	税率	金額(税抜・税込)
	%	消費税額等

収 入
印 紙

コクヨ ウケ-1097

登録番号 T7210001016793

福井県吉田郡永平寺町山第9号1番地2
まちづくり株式会社ZENコネク

長野市議会新友会 政務活動視察

■期日：令和7年10月31日（金）

視察先	調査事項
まちづくり株式会社 ZEN コネクト	レベル4 自動運転バス ZEN drive について

■時間：午前10時15分から午前11時45分頃まで

■集合場所：自動運転遠隔監視室 福井県吉田郡永平寺町荒谷23-1

（最寄りのバス停は、荒谷停留所）

■電話：0776-63-3900

■担当者：

1 遠隔視察受け入れ再開のお知らせ

視察受け入れを令和7年5月7日（水）より再開いたします。

ご希望される場合は電話にてお申し込みください。

申し込み受付は、4月1日（火）よりさせていただきます。

受け入れ日：平日のみ ※12月1日～2月末日は受け入れしていません

受け入れ時間：午前10時～12時、午後1時～3時

※午前、午後に1団体ずつ受け入れさせていただきます。

視察時間：約1時間（説明・質疑応答約30分＋試乗約30分）

1 受け入れ人数：10人まで※10人を超える場合はご相談させてください。

視察費用（資料代、試乗1往復込み）/1団体

・1人～5人 11,000円

・6人～10人 22,000円

集合場所：自動運転遠隔監視室 福井県吉田郡永平寺町荒谷23-1

お申し込み先：まちづくり株式会社ZENコネクト

（0776）63-3900

担当： ※対応は平日（9：00～16：00）のみ

ZEN-drive 運行再開について

令和7年3月1日（土）

政務活動費支出命令書(会派支出)

新友会

会派名

支払日	✓ 令和 7年 10月 31日			
支払先	加藤 英夫／青木 敏明／金沢 敦志／小泉 栄正			
活動に要した経費	使 途 区 分	経費の内訳、算出根拠等		金 額
	(該当項目に○)	交 通 費	R7新友会視察(10/31) ハピラインふくい(現地購入切符代)	4, 200円
	研究研修費		(福井→小松間)@1,050円×4名分	
	調 査 旅 費			
	資料作成費			
	資料購入費			
	広報・広聴費			
	人 件 費			
	事務所費			
	その他の経費			
合 計				4, 200円
(領収書添付欄)				

中核市サミット in 福井、まちづくり(株)、小松市(バス試乗)
令和7年10月30日(木)、31日(金) <30日:通常

＜30日：通常期 31日：繁忙期＞

JR小松駅

まちづくり(株)

小松市

旅費額明細

政務活動費支出命令書(会派支出)

新友会

会派名

支 払 日	✓ 令和 7年 10月 31日 ✓			
支 払 先	加藤 英夫／金沢 敦志／小泉 栄正			
活動に要 した経費	使 途 区 分	経費の内訳、算出根拠等		金 額
	(該当項目に○)	旅 費	中核市サミット2025 in福井 JR切符払戻し分	△7,890円
	研 究○修 費		@2,630円×3名分	
	調 査 旅 費			
	資 料 作 成 費			
	資 料 購 入 費			
	広 報・広 聴 費			
	人 件 費			
	事 務 所 費			
	その他の経費			
合 計				△7,890円

(領収書添付欄)

※2時間超の遅延が発生し、小松－長野間の新幹線特急料金(5,250円)の半額が払戻しとなった。
※※JRの旅客営業規則により、特急料金を半額にした際の10円未満は切上げとなる。

¥1250÷2

*** 払戻計算書 ***

原券発行年月日 2025/10/ 9
乗車年月日 2025/10/31
券種 乗車券類



お買い上げ金額 15,750円
払戻対象金額 7,890円
手数料 0円
合計 7,890円

(適用税率 10%)

本払戻計算書は時間がたつと文字が
薄くなる場合がありますので、長期
間保存する場合はコピーをお取りく
ださい。

2025年10月31日

2630/人

東日本旅客鉄道株式会社
登録番号 T9011001029597

長野806 No.000003

¥1250÷2

*** 払戻計算書 ***

原券発行年月日 2025/10/ 9
乗車年月日 2025/10/31
券種 乗車券類

お買い上げ金額 15,750円
払戻対象金額 7,890円
手数料 0円
合計 7,890円

(適用税率 10%)

本払戻計算書は時間がたつと文字が
薄くなる場合がありますので、長期
間保存する場合はコピーをお取りく
ださい。

2025年10月31日

2630/人

東日本旅客鉄道株式会社
登録番号 T9011001029597

長野806 No.000003

新友会 政務活動行政視察(No.1)

中核市サミット in 福井、まちづくり(株)、小松市(バス試乗)
令和7年10月30日(木)、31日(金)

JR福井駅 ※福井駅からバス移動 JR小松駅

フェニックス・プラザ まちづくり(株)

福井市 福井県永平寺町 小松市

<30日:通常期 31日:繁忙期>

旅 費 額 明 細

鉄	行 先	自 長野	經由	經由	經由	經由	至 福井	運 賃	グリーン料金
	路 程	304.0 km	km	km	km	km	304.0 km	5,500 円	0 円
急行 料金	特別職	5,820 円	円	円	円	円	計 5,820 円	小計 特	11,320 円
	一般職	G 円	G 円	G 円	G 円	G 円	円	—	円
船	行 先	自 福井	經由	經由	經由	經由	至 小松	運 賃	グリーン料金
	路 程	48.3 km		ハピラインふくい			km	48.3 km	1,050 円
急行 料金	特別職	円					計 0 円	小計 特	1,050 円
	一般職	G 円	G 円	G 円	G 円	G 円	円	—	円
鉄	行 先	自 小松	金沢 經由	經由	經由	經由	至 長野	運 賃	グリーン料金
	路 程	27.1 km	228.1 km	km	km	km	255.2 km	4,510 円	0 円
急行 料金	特別職	5,250 円	円	円	円	円	計 5,250 円	小計 特	9,760 円
	一般職	G 円	G 円	G 円	G 円	G 円	円	—	円
船	行 先	自	經由	經由	經由	經由	至	運 賃	グリーン料金
	路 程	km	km	km	km	km	0.0 km	円	0 円
急行 料金	特別職	円	円	円	円	円	計 0 円	小計 特	0 円
	一般職	G 円	G 円	G 円	G 円	G 円	円	—	円
船	行 先	自	經由	經由	經由	經由	至	運 賃	グリーン料金
	路 程	km	km	km	km	km	0.0 km	円	0 円
急行 料金	特別職	円	円	円	円	円	計 0 円	小計 特	0 円
	一般職	G 円	G 円	G 円	G 円	G 円	円	—	円
船	行 先	自	經由	經由	經由	經由	至	運 賃	グリーン料金
	路 程	km	km	km	km	km	0.0 km	円	0 円
急行 料金	特別職	円	円	円	円	円	計 0 円	小計 特	0 円
	一般職	G 円	G 円	G 円	G 円	G 円	円	—	円
船	行 先	自	經由	經由	經由	經由	至	運 賃	グリーン料金
	路 程	km	km	km	km	km	0.0 km	円	0 円
急行 料金	特別職	円	円	円	円	円	計 0 円	小計 特	0 円
	一般職	G 円	G 円	G 円	G 円	G 円	円	—	円
船	行 先	自	經由	經由	經由	經由	至	運 賃	グリーン料金
	路 程	km	km	km	km	km	0.0 km	円	0 円
急行 料金	特別職	円	円	円	円	円	計 0 円	小計 特	0 円
	一般職	G 円	G 円	G 円	G 円	G 円	円	—	円
計 特									22,130
—									0 円
車 賃	自 至	円	自 至	円	計	円			
	自 至	円	自 至	円	計	0 円			
航 空 賃	自 至	円	自 至	円	計	円			
	自 至	円	自 至	円	計	0 円			
日 当	定額1日	3,000 円	2.0 日	計 特	6,000 円				
	定額1日	円	日	—	0 円				
宿 泊 料	県内(県外) 定額・指定1夜	円	1 夜	計 特	実費	円			
	県内・県外 定額・指定1夜	円	夜	—	円				
食卓料									
備 考	☒ 宿泊料は、一夜 定額14,800円(特別職)を上限とする実費。 ☐ 高級旅費(条例第22条) ☐ 調整(条例第24条第4号適用)								
	合計								
	28,130 円								
									円

①22,130
△2630
19500

＜30日：通常期 31日：繁忙期＞

JR小松駅

小松市

旅費額明細

行政視察報告書 (No.1)

令和 7年 10月 31日

代表者 寺沢 さゆり 会長

報告者氏名: 加藤 英夫

次のとおり、視察をしましたので関係書類を添えて報告いたします。

1 視察者氏名

寺沢 さゆり	小泉 栄正	金沢 敦志	青木 敏明
加藤 英夫			

2 視察期間

令和 7年 10月 30日 ~ 令和 7年 10月 31日

3 視察先、視察事項、選定理由

視 察 日 時	視 察 先	視 察 事 項 及 び 選 定 理 由
令和7年 10月30日 13:00~17:00	福井市 ・フェニックスプラザ	「中核市サミット 2025 in 福井」に参加
令和7年 10月31日 10:15~11:30	永平寺町 ・マチづくり (株)ZENコネクト	レベル4自動運転移動サービスについて
令和7年 10月31日 15:40~16:20	小松市 ・北鉄加賀バス(株)	小松駅~小松空港間 レール&フライト自動運転バスサービスについて
年 月 日 時 分~時 分		

行政視察報告書 (No.2)

(視察参加者必須)

報告者氏名 加藤英夫



月 日	視 察 先	視察結果 (参考となった事項、考察)
令和7年 10月30 日	中核市サミット 2025in 福井	基調講演：宇野重規教授（東京大学社会科学研究所）「地域から新しい日本をつくる ～中核市に何ができるか～」 パネルディスカッション（3会場） 「スポーツを通じた楽しいまちづくり」 「地域に密着した安心な福祉体制のあり方」 「『元気×イノベーション』～未来を創る地域づくり～」 閉会・宣言採択：「福井宣言」採択 基調講演 講師の宇野氏からは、人口減少が進行する現代日本において、国と地方の新たな関係性を再構築する必要性が強調された。 特に、中核市が果たす役割として、「地域から新しい日本をつくる」という視点に立ち、地方自治の力を最大限に発揮することの重要性が示された。 (1) 関係人口の見直し 人口減少を「問題」と捉えるだけでなく、複数居住や二拠点生活といった柔軟な居住のあり方を通じて、都市と地方をつなぐ「関係人口」を増やしていくことの必要性が述べられた。 単に定住人口を追うのではなく、地域と多様に関わる人々を増やすことが、これからの地方創生の鍵であると指摘された。 (2) 税や社会のあり方に関する問題意識 地方で子どもを育てながらも、就職や納税が都市部に集中してしまう現状について、「この仕組みを当然とすることへの疑問」が提示された。 地域で育った人材の成果が都市部に吸い上げられる構造を見直し、地方の貢献が正当に評価される仕組みをつくるべきだと訴えた。 (3) 所有権の再定義 地方には所有者不明の土地・建物が多く、地域資源として活用しなくてもできない現状がある。これは「所有権の絶対神話」が社会の柔軟な再編を妨げている側面があると指摘。 公と私のバランスを取り直し、地域が主体的に土地を再利用できる制度設計が必要であると述べた。

		(4) 国と地方の役割の再定義 従来の「国が決め、地方が従う」関係から脱却し、地方が独自の判断と責任で政策を構築する時代に入っていると強調した。 その上で、国は基盤的な制度設計と支援を担い、地方がそれを自らの実情に合わせて活用する「再定義された協働関係」への転換を提案した。 (5) デジタル化と DX の本質 デジタル化においては、「共通の仕組みを国が整備し、地方は自らの状況に合わせて取捨選択・再構成する」ことが理想とされた。また、DX（デジタルトランスフォーメーション）の本質は技術導入ではなく、「住民中心の行政運営」にあると強調。利用しやすく、住民が実感できる形でデジタル化を進めることが求められると述べた。 (6) 住民が参加する 市民が政策形成に直接関わることを可能にするデジタル民主主義のツールとして「DECIDIM（デシディム）」が紹介された。 これを活用することで、地域課題の共有と合意形成をより透明で双方向的なものにできるとした。 (7) 一極集中の再定義 最後に、東京一極集中を当然とする価値観を改め、「それが本当に良いのか」を国全体で再検討すべき時期に来ていると述べた。 人口・資源・機会の偏在を是正し、地方が持つ多様な可能性を引き出すことが、新しい日本の形をつくる第一歩であると結んだ。
		基調講演総括 本講演は、単なる地方創生論にとどまらず、「国と地方の関係の再定義」や「デジタル時代の自治のあり方」といった、自治体運営の根本に関わる問題提起であった。 特に、住民を中心に据えた DX や、所有権・納税構造など制度そのものを見直す視点は、今後の中核市に求められる自治力強化の方向性を示唆している。「地域から新しい日本をつくる」という言葉の通り、地方の現場から制度を再構築していくという発想こそ、これからの地方行政に必要な視座であると感じた。
		パネルディスカッション 「スポーツを通じた楽しいまちづくり」 パネルディスカッションでは、「スポーツを通じた楽しいまちづくり」をテーマに、富山市、西宮市、福井市の三市から具体的な取組が紹介された。 いずれの市も、スポーツを単なる競技や施設整備の枠にとどめず、地域の交流や経済活性化、次世代育成、文化の創造といった幅広い分野と結びつけ、まちのにぎわいと一体感を生み出すことを重視している。

		富山市 富山市では、民間の資金やノウハウを活用した R コンセッション事業により富山市総合体育館を運営しており、既存施設を活かしながら官民双方にメリットのある形で再生を図っている。 駅に近い立地を生かし、多様なイベントや民間との連携を通じて交流人口の拡大を進めるとともに、北陸新幹線開業を契機とした駅南北の一体化整備により、利便性とまちの回遊性が向上している。 また、マイナビオールスターゲームの開催など、プロチームとの連携によるスポーツイベントの誘致にも積極的に取り組み、スポーツを通じた都市の活力づくりを推進している。 西宮市 西宮市では、プロチーム、大学、ゆかりのあるトップアスリートが連携する「アスレチック・リエゾン・西宮」を設立し、小中学校にアスリート先生を派遣するなど、子どもたちが一流のスポーツに触れ、夢や目標を育む環境を整えている。 甲子園球場を中心としたボールパークエリアの整備を進め、野球のない日でも人が集い楽しめる空間づくりを目指しており、スポーツと観光を組み合わせた新しいまちのにぎわい創出に挑戦している。 また、プロ野球やサッカーなどのチームと連携協定を締結し、部活動の地域移行支援や競技人口の維持にも取り組み、地域全体でスポーツ文化を支える仕組みを構築している。 福井市 福井市では、「ダンバスタ FUKUI」と題したダンスを軸としたまちづくりを展開しており、JDH JAPAN の協力のもと中学生へのダンスレッスンを実施するなど、表現力と創造性を育む活動を通じて新しい地域文化を形成している。 さらに、「ふくい桜マラソン」を“とんがった大会”として開催し、美しい桜並木とまちなかを活かしたコース設定によって全国的な知名度を高めている。 今後はアリーナ整備構想を進め、スポーツ・音楽・文化を融合した多目的拠点の形成を目指しており、地域の魅力発信と市民交流の活性化に力を注いでいる。
--	--	---

		パネルディスカッション総括 三市の事例は、いずれもスポーツをまちづくりの中核に据えつつ、それぞれの地域特性を生かした多様な展開を見せている。 富山市は官民連携による持続可能な施設運営と都市構造の一体化、西宮市は教育とプロスポーツの融合による人づくり、福井市はダンスやマラソンといった文化的アプローチによる新しい地域ブランドの形成が特徴的である。 スポーツを通じて人と人がつながり、地域が元気になる仕組みをいかに作るかが、今後のまちづくりの鍵であると改めて感じた。 所感 今回の基調講演およびパネルディスカッションを通じて、スポーツが地域に与える影響の大きさと可能性を改めて実感した。いずれの都市も、単なる施設整備やイベント開催に留まらず、スポーツを「まちのストーリーづくり」「人づくり」「地域経済づくり」と結びつけ、行政と民間、市民が一体となって持続可能なまちの活力を生み出していることが共通していた。スポーツを介して人と人がつながり、地域への誇りや愛着を育むことが、結果として都市の魅力を高める原動力となっている。 長野市においても、冬季五輪開催都市としてのレガシーを活かしながら、スポーツを核としたまちづくりの深化が期待される。今後、南長野運動公園や新アリーナ構想をはじめとする既存施設の有効活用に加え、民間との連携によるにぎわい創出や、プロ・実業団チームとの協働による地域振興策を積極的に検討すべきである。また、学校教育や地域クラブ活動と連動した次世代育成の仕組みづくり、スポーツツーリズムの推進など、ソフト事業の展開も重要となる。 今回の各市の事例は、スポーツを「楽しむ」「支える」「つながる」ことでまちを元気にする実践例であり、長野市においても、地域特性と市民参加を生かした「スポーツがまちを動かす仕組み」づくりに取り組む上で、極めて参考となるものである。
--	--	---

令和7年 10月31 日	永平寺町 レベル4自動 運転移動サー ビスについて	概要 福井県永平寺町では、全国で初めてレベル4（無人運転）による自動運転バスの公道営業運行を開始しており、地域公共交通の新たな形として注目されている。今回の視察では、荒谷から永平寺までの区間において実際に運行している自動運転バスに試乗し、運行状況や安全対策、今後の課題等について確認した。 運行の概要と特徴 このバスは、駅荒谷から永平寺までの約2キロ区間を結んでおり、最高時速は19kmだが、安全性を最優先に時速12kmで運行している。車両は電磁誘導線を埋設した道路上を走行しており、1メートルあたり約3,000円という比較的安価なコストで設置が可能となっている。この方式により走行の安定性を確保しつつ、導入コストを抑える工夫がなされている。 カメラのみでは障害物までの距離を正確に把握できないため、LiDAR（レーザー測距センサー）を併用しており、カメラ映像とレーザー計測を組み合わせることで高い精度の認識を実現している。運行管理は遠隔監視センターで常時行われ、車両の位置や周囲の状況をリアルタイムで把握している。 また、降雪・積雪時にはセンサーの誤作動や視界不良が生じるため運行できず、降雪地域特有の課題も明らかになっている。さらに、一般道路での自動運転バス導入には高額な費用が伴い、車両1台あたり約1億円、年間の委託費も同程度と高価であることから、現段階では自治体単独での事業継続には難しさがある。 一方で、こうした技術の導入は、運転士不足の解消や地域交通の持続性確保に寄与するとともに、観光地・永平寺と鉄道駅を結ぶ新たな交通手段として、観光客の利便性向上や回遊性の拡大にもつながる。 将来的には、えちぜん鉄道永平寺口駅から永平寺までの延伸を模索しているとのこと。 所感 長野市でも、地域公共交通の担い手不足や中山間地域での移動手段確保が喫緊の課題である。自動運転技術の活用は、交通空白地の解消や観光アクセスの改善に資する可能性が高く、特に善光寺・戸隠・松代などの観光拠点を結ぶ限定ルートでの小規模実証や、降雪環境下での技術検証を含めた「長野型モデル」の構築が有効である。 また、本市には、かつての河東線など鉄道軌道跡地が一部残されており、これらの活用により、用地確保の容易さや安全性の高い専用走行環境の確保といった利点が期待できる。特に松代・若穂地域の旧河東線跡地を活用すれば、観光と地域交通の両面で効果を発揮する可能性があり、自動運転バスの導入実証の舞台として有望。
-----------------------------	--	--

	小松市 レベル 2 自動 運転バスにつ いて	概要 小松市では、北陸新幹線の小松延伸開業にあわせ、小松駅から小松空港までの約 3km 区間において、自動運転バスの営業運行がすでに始まっている。駅と空港という主要交通拠点を直結するこの路線は、国内でも実用化段階に入った先進的な事例であり、観光客やビジネス利用者の移動手段としての利便性向上を目的に整備された。 運行の特徴 この自動運転バスは、一般の市道を走行しており、信号交差点や他の車両との混在交通環境下で運行されている。自動運転のレベルは「レベル 2」にあたり、ドライバーが常時乗車し、緊急時には即座に手動操作に切り替える体制をとっている。 センサーにはカメラと LiDAR（レーザー測距）を併用し、周囲の車両や歩行者、信号などを高精度に検知している。しかし、現状ではわずかな障害物や影響にも反応して急ブレーキがかかることがあり、その都度自動運転を一時的に解除しなければならないという課題が残る。 走行速度は最大で時速 30km に制限されており、円滑な運行を維持するためには、片側 2 車線が確保された区間に限定しての運用が求められている。こうした安全面を最優先にした運行設計がなされている一方で、都市部での一般的な交通環境への適応には、今後さらなる改良が必要であると思う。 所感 自動運転技術を「実証」段階から「営業運行」へと進めた点は高く評価できる。空港アクセスの利便性向上だけでなく、地域におけるデジタル技術活用や新しいモビリティモデルの形成にもつながっている。行政・企業・大学が連携し、実際の運行データを分析しながら技術改善を図る体制も整っており、地方都市における持続的な交通システムの実装に向けた実践的な事例である。 一方で、悪天候下でのセンサー精度、交差点通過時の判断、車線の狭い道路での対応など、完全な自動化に至るにはまだ技術的・運用的な課題が多いようだ。 小松市の事例は、観光都市としての特色を活かし、鉄道駅と空港という拠点間の移動を効率化した点で非常に先進的である。観光・経済・技術の融合による地域交通の再構築は、地方都市における自動運転導入の有力な方向性を示している。 一方で、長野市においても「長野駅から善光寺まで自動運転バスを走らせてはどうか」という声がしばしば聞かれるが、現状の技術水準や道路環境を考慮すると、まだ課題が多く、実用化は次期構想として検討すべき段階にあると言える。善光寺方面の道路は歩行者・観光客・一般車両が混在しており、運行の安全性・速度・経済性を総合的に判断する必要がある。
--	---	--

		今後、長野市が自動運転導入を進める際には、まず交通量が限定的なルートや、観光地・住宅地を結ぶ短距離運行など、段階的な導入を想定することが現実的と考える。 また、小松市のように「営業運行を通じてデータを蓄積し、技術と制度を磨いていく」という姿勢は、長野市が将来のモビリティ戦略を構築するうえで重要ではないかとも思う。
--	--	---